

BOOK No.6 インフォメーション

男女の間のさまざまな課題に
気づき、私らしい人生を送る
ための書籍を隔月でご紹介

子どもの貧困

* 本号に関連し、講座「若者／女性にとっての貧困とこれから」(1/18[日]) や個別キャリア相談、求人紹介付個別相談(ともに女性限定)を開催しています。また、DV被害者の自立支援のための支援物資を募集しています(12/20[土]17:00まで)。詳細は表面カレンダー及びHPをご覧ください。

日本の子どもの6～7人に1人が貧困

「相対的貧困」という言葉をご存じですか。その社会において当たり前と思われる生活や活動をするのが困難となる貧困状況のことです。子どもの生活でいえば、たとえば、学校にいったり友だちと遊んだり、クラブ活動をするようなことを言います。日本の子ども達の相対的貧困率は上昇を続けており、先進20カ国中4番目に子どもの貧困率が高くなっています。

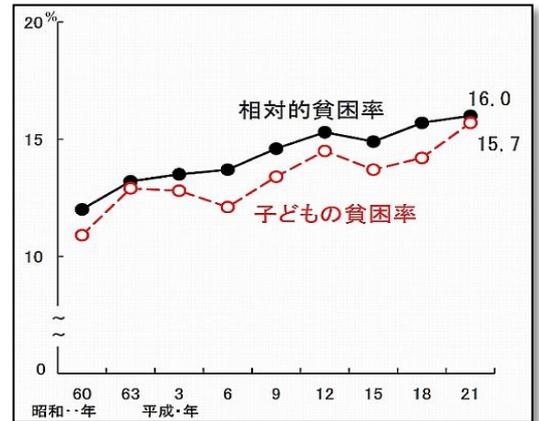
貧困が子どもに与える影響

貧困は子どもの学習面や健康だけでなく、その後の自立、就労などにも影響を与え、大人になっても不利な状況に追い込まれることが多くになると言われています。彼らの子どももまた貧困の中で育つ可能性が高く、「貧困の連鎖」という言葉もあります。

貧困の連鎖を断つ

子どもは、大人に見守られ、励まし続けられながら成長していくものではないでしょうか。貧困を訴えることは大人でもつらいことであり、貧困に苦しむ子どもたちは多くの場合、自ら訴えかけることはできません。私たちひとりひとりが目の前の子どもに関心を持ち、できることから手をさしのべることが必要です。子どもが安心して育つ環境を社会で整えていく必要があります。

(参考文献) 阿部彩『子どもの貧困Ⅱ』P6、11、新井直之『チャイルド・プア』P33-34



日本の相対的貧困率の推移 (出所：厚生労働省HP)

【役立つ2冊をご紹介】

※市内図書館&すくらむ21で読めます&借りられます



見えにくい子どもの貧困の実態を当事者や親、支援者へのインタビューから伝える

『チャイルド・プア 社会を蝕む子どもの貧困』新井直之著 TOブックス 2014年

子どもの貧困を特集したNHK番組を書籍化したもの。貧困状況の子どもたちが笑顔の後ろにどれほどの悲しみや不安を抱えているかがよくわかります。困難な家庭の子ども達への学習支援教室や将来貧困に陥る可能性の高い若者への居場所の提供など、学校や家庭、職場で排除されてしまう貧困家庭に育つ子ども達に寄り添いながら支援する必要がわかります。



ひとり親家庭の親と子どもたちの困難を伝え、どのような支援が必要か考える本

『ひとり親家庭』赤石千衣子著 岩波書店 2014年

ひとり親家庭の相対的貧困率は50.7%。日本のシングルマザーの就労率は世界的に見ても驚異的に高く、働いても貧困から抜け出せない状況があります。母子家庭のみならず、父子家庭も貧困を抱えて奮闘しています。ひとり親家庭が抱える困難の状況を明らかにし、求められる支援を考える本です。

川崎市男女共同参画センター (愛称:すくらむ21)

※JR 南武線「武蔵溝ノ口駅」徒歩 10分
※東急田園都市線・大井町線「溝の口駅」徒歩 10分
〒213-0001 川崎市高津区溝口 2-20-1
電話：044-813-0808
FAX：044-813-0864 (受付 9:00~21:30)



携帯はこちらから

すくらむ21

検索

